

貯留効果に優れた（機能分離型） 「田んぼダム」に取り組みましょう！

「機能分離型田んぼダム」とは

- 「機能分離型田んぼダム」とは、水田の水管理を行う通常の「堰板（水位調整板）」とは別に、流出量を絞る「流出量調整板」を設置することで、大雨の際に水田に一時的に水を貯め、排水路や河川への負担を軽減する取組です。

「機能分離型田んぼダム」の特徴

メリット

- 小規模な雨では雨水を貯留しないため、“水田を乾かす必要がある時期”でも降雨による湛水の影響は小さくて済みます。
- 雨の強さに関係なく、水田からの排水量はほぼ同じです。排水量をほぼ一定に抑制する機能に優れています。

デメリット

- 「堰板（水位調整板）」を入れていた排水枡の溝に「流出量調整板」を入れ、「堰板（水位調整板）」は排水枡の外に出して設置することになるため、湛水時に浮かないように土で押える必要があります。



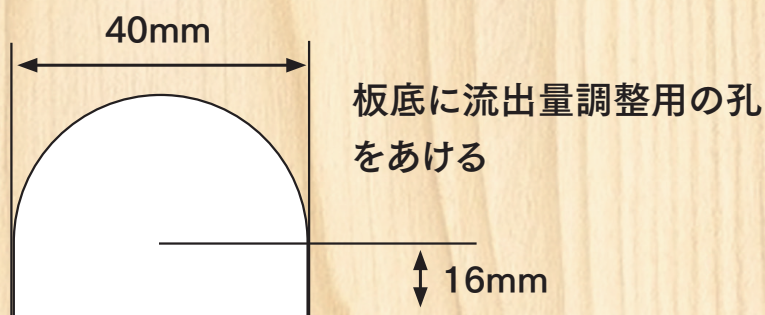
大雨の際はここから越流する

「田んぼダム」流出量調整板の作り方

- 落口枥溝幅より10mm弱程度短い幅の杉板を用意します。
- 所定の高さになるよう杉板をカットします。
(豪雨時に流出量調整板の天端から越流するよう、杉板の高さは落口枥天端より5cmほど低くします)
- 杉板の底面から16mmほど上を中心として直径40mmの孔を開けます。(□40mm程度の角穴でも可)
- 杉板底面の開口幅が40mm程度となるよう円弧部を切り落とします。



落口枥の溝に1cm程度掛かるよう板の長さを調整する



落口枥の天端より5cm程度低くなるよう板の長さを調整する